

地元高校生の主体的な地域活動を支援する 《八幡学》プロジェクト

COG 2018 応募プラン 地域活動や市政に参画する仕組みづくり 滋賀県近江八幡市 《八幡学》プロジェクトチーム

概要

地域創生を高校生を中心として取り組む エコシステムの創造

滋賀県近江八幡市の地域課題である「地域活動や市政に参画する仕組みづくり」として、地元高校生の主体的な地域活動を支援する《八幡学》プロジェクトに取り組みます。これは近江八幡市の自然環境や歴史・文化などの地域資源を活用し、地元高校生たち1人ひとりの興味・関心に向き合った地域学習・マイプロジェクト（マイプロ）支援を行う活動です。市民や教育者、研究者、企業・行政の方が連携することで様々な教育支援を行います。このプロジェクトを通じて、地域の文化継承や産業振興などの地域創生に取り組む《高校生を中心とした人材育成エコシステム》を構築し、地域コミュニティの持続可能な未来をつくります。



メンター制度

高校の先生・大学生などの《八幡学》プロジェクトメンターから育成段階からマイプロまで幅広いメンタリングを受けることができます。



町家利用

《八幡学》プロジェクトを受講すれば、町家などをワーキングスペースとして利用することができます。



実践の場の提供

大学生やNPO法人、まちづくり会社の担当者によるサポートにより発表の機会を得ることができます。

- Sustainable Week での発表
- まちなかゼミでのメンタリング

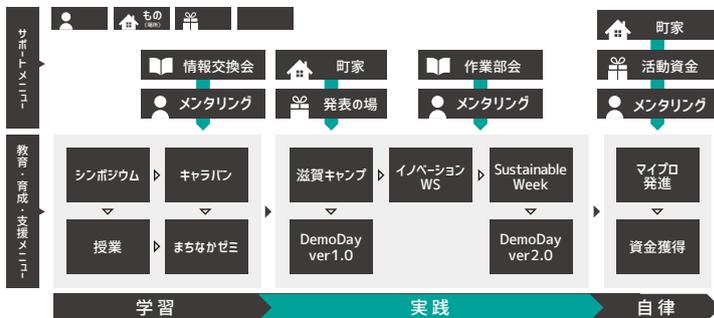


マイプロに必要な情報

マイプロに向けて必要な様々な情報・ノウハウを得ることができます。外部団体、HP・SNSなどで、情報を発信することもできます。

スケジュール

ステークホルダーと生徒が活動しやすい 協働企画の実施



1年目は、プロジェクトチームという形でそれぞれの団体が活動は実施していきます。また次の年以降のことを考え、作業部会も兼ねて年に3回ほど意見交換、情報交換会を実施します。その場には行政の担当者にも参加して頂き、より持続可能な運営となるようにそれぞれの立場から議論したいと思います。2年目からは、本格的にコンソーシアム実現に向けた作業部会を行政主導で立ち上げ、3年目から滋賀県内の様々な高校生の受け入れを実施したいと考えています。そして、補助金だけに頼ることのない、企業などからの外部資金をあつめることで地域の自律（サステナブル）を促進させていきたいです。

コンテンツ

高校生のやってみたいを複数の団体が 協力して実現までフォローアップ

シンポジウム (交流会) マイプロ、それぞれのフィールドで挑戦するのに必要なマインドや姿勢を地域アクトーと共に考えます。	高校での授業 (方法論を学ぶ) マイプロや地域学習の立ち上げに必要なチームワーク、クリエイティブなチームを作り、ユニークな成果を生み出す方法論を各高校で学びます。	キャラバン (先着から実践を知る) 地域学習や活動において不可欠な対話の手法、チームづくり、SDGsの「いしほ」を学びます。	まちなかゼミ (アイデアを共有する) 町家でプレゼンを聞いて、マイプロの悩みなどを共有しながらプロジェクトを進めます。
滋賀キャン (15か所での地域学習) 「やってみたいをやってみよう」のコンセプトで滋賀県内の15か所の地域学習を体験する3泊4日のキャンプに参加します。	イノベーションWS ユニークなアイデアを実現するために、イノベティブな手法を学びます。 DemoDay ver.1.0 キャンプの成果をプレゼンし、さらなるブラッシュアップを図ります。	Sustainable Week (実践する) メンターによる支援後、さらに磨き上げたマイプロを地域アクトーや保護者、同僚などにプレゼンします。	DemoDay ver.2.0 マイプロの最終プレゼンです。協力者・支援者などの獲得を目指します。

《八幡学》プロジェクトは地元で活躍する複数団体が共同の元、以下の3つのフェーズで高校生の「やってみたい」を応援・支援し、スキル・ノウハウ・ネットワークをもとにプロジェクトの実装していきます。

- ★《八幡学》プロジェクト学習フェーズ-ホンモノのオトナに出会う-
- ★《八幡学》プロジェクト実践フェーズ-オモイをカタチに-
- ★《八幡学》プロジェクト自律フェーズ-マイプロを社会へ-

団体名	主な活動	関係するSDGs
株式会社まっせ	・現在近江兄弟社高校で実施中の八幡学の継続 ・現場の人の声を伝えるワークショップの実施	1, 5, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17, 18, 19, 20, 21, 22, 23, 24, 25, 26, 27, 28, 29, 30, 31, 32, 33, 34, 35, 36, 37, 38, 39, 40, 41, 42, 43, 44, 45, 46, 47, 48, 49, 50, 51, 52, 53, 54, 55, 56, 57, 58, 59, 60, 61, 62, 63, 64, 65, 66, 67, 68, 69, 70, 71, 72, 73, 74, 75, 76, 77, 78, 79, 80, 81, 82, 83, 84, 85, 86, 87, 88, 89, 90, 91, 92, 93, 94, 95, 96, 97, 98, 99, 100
立命館大学 Sustainable Week 実行委員会	・SDGs入門のためのキャラバン活動の実施 ・参加学生の発表などに関するメンター機能	1, 5, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17, 18, 19, 20, 21, 22, 23, 24, 25, 26, 27, 28, 29, 30, 31, 32, 33, 34, 35, 36, 37, 38, 39, 40, 41, 42, 43, 44, 45, 46, 47, 48, 49, 50, 51, 52, 53, 54, 55, 56, 57, 58, 59, 60, 61, 62, 63, 64, 65, 66, 67, 68, 69, 70, 71, 72, 73, 74, 75, 76, 77, 78, 79, 80, 81, 82, 83, 84, 85, 86, 87, 88, 89, 90, 91, 92, 93, 94, 95, 96, 97, 98, 99, 100
京都大学 森里海環境教育 研究ユニット	・八幡の地域資源の認知フィールドワーク実施 ・大学院生による課題抽出メソッドの共有・教育	1, 5, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17, 18, 19, 20, 21, 22, 23, 24, 25, 26, 27, 28, 29, 30, 31, 32, 33, 34, 35, 36, 37, 38, 39, 40, 41, 42, 43, 44, 45, 46, 47, 48, 49, 50, 51, 52, 53, 54, 55, 56, 57, 58, 59, 60, 61, 62, 63, 64, 65, 66, 67, 68, 69, 70, 71, 72, 73, 74, 75, 76, 77, 78, 79, 80, 81, 82, 83, 84, 85, 86, 87, 88, 89, 90, 91, 92, 93, 94, 95, 96, 97, 98, 99, 100
NPO法人 グローバルな学びのコミュニティ・留学フェローシップ	・抽出した課題の提案ワークショップの実施 ・地域課題についてのキャンプ開講、運営	1, 5, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17, 18, 19, 20, 21, 22, 23, 24, 25, 26, 27, 28, 29, 30, 31, 32, 33, 34, 35, 36, 37, 38, 39, 40, 41, 42, 43, 44, 45, 46, 47, 48, 49, 50, 51, 52, 53, 54, 55, 56, 57, 58, 59, 60, 61, 62, 63, 64, 65, 66, 67, 68, 69, 70, 71, 72, 73, 74, 75, 76, 77, 78, 79, 80, 81, 82, 83, 84, 85, 86, 87, 88, 89, 90, 91, 92, 93, 94, 95, 96, 97, 98, 99, 100
学校法人 ヴォーリス学園 近江兄弟社高校	・近江八幡市の八幡堀を拠点とした活動の継続 ・学んだ地域課題をデータから見れる人材育成	1, 5, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17, 18, 19, 20, 21, 22, 23, 24, 25, 26, 27, 28, 29, 30, 31, 32, 33, 34, 35, 36, 37, 38, 39, 40, 41, 42, 43, 44, 45, 46, 47, 48, 49, 50, 51, 52, 53, 54, 55, 56, 57, 58, 59, 60, 61, 62, 63, 64, 65, 66, 67, 68, 69, 70, 71, 72, 73, 74, 75, 76, 77, 78, 79, 80, 81, 82, 83, 84, 85, 86, 87, 88, 89, 90, 91, 92, 93, 94, 95, 96, 97, 98, 99, 100

現在の成果

高校生が実際に実践を通じて ステークホルダーと協働する経験

以前より松明の存在は知っていたが、あまり関心はなかった。しかしこのプロジェクトに参加して、若者ももっと興味をもち受け継いでほしいと思った。

「伝統文化」と聞いてどんなことをするのかかわからず、堅苦しいものだと思っていた。しかし次の世代へ繋いでいくことが大切だと感じた。

現在、まちづくり会社、外部NPO、学生団体、高校が連携した取組で成果が上がっています。今回提案した《八幡学》プロジェクトに参加した高校生のポスター、

高校生が取り組んだマイプロに参加した生徒へのインタビューを掲載します。このプロジェクトでは、地元企業による会場の無償提供や近江八幡市の後援などがありました。また、SDGsを通じたユースネットワークによる政策提言活動が活発化している動きなどがあります。実際に立命館大学学生がSDGsに取り組んだことをきっかけに滋賀県草津市の審議委員になった前例があります。このような事例を確認すると、地域に出る活動が推進されます。そして、若者が自身の持つつながりを元にコレクティブ・インパクトによる社会課題解決の第一歩となります。